

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2008年8月）

発表日：2008年10月7日（火）

～先行、一致ともに大幅悪化。先行きも悪化が続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

本日公表された8月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲2.8ポイント、C I先行指数が前月差▲2.1ポイントと、ともに大幅に低下した。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、6、7月に続いて「悪化」が維持された。内閣府の定義によると、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを暫定的に示す」とされており、C I一致指数からは、景気が後退局面にあることが示唆されている。引き続き、交易条件の悪化に伴う海外への所得流出や、海外景気の鈍化に伴う輸出の減速が日本経済を下押ししている。

C I先行指数の悪化傾向が続いていることも懸念材料だ。通常、C I先行指数は景気に半年程度先行すると言われるため、単純に考えれば、少なくとも09年初までは景気の悪化が続くということになる。また、構成する系列に生産関連指標が多いため、C I一致指数は鉱工業生産の動向に大きく影響されることは良く知られているが、先日公表された8月の鉱工業生産指数と9、10月の予測指数から判断すると、08年1-3月期と4-6月期に続いて、7-9月と10-12月も生産が前期比マイナスになる可能性が高く、C I一致指数も弱含みが予想される。結果として、C I一致指数の基調判断も「悪化」（≡景気後退局面）が続くだろう。

米国における金融混乱と世界経済の悪化、株価の急落、円高の進行等、足元では悪材料が目白押しであり、日本経済は回復の見通しがたたない状況となっている。少し前までは、今回の景気後退局面は、期間は「短く」、深度は「浅い」ものになるという見方が、筆者を含め、エコノミストの間で多かった。しかし、現在の状況から判断すると、景気の持ち直し時期が後ずれし、調整度合いも大きくなるリスクが高まっていると言わざるを得ない。

